

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	津山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
	総合理工学科 先進科学系		0	2	6	8	7		
	総合理工学科 機械システム系				11	13	7		
	総合理工学科 電気電子システム系				5	7	7		
	総合理工学科 情報システム系				5	7	7		
	電子制御工学科			0	9	9	7		
	情報工学科				10	10	7		
	機械・制御システム工学専攻			8	14	22	7		
	電子・情報システム工学専攻				10	18	7		
(備考) 電子制御工学科、情報工学科については、平成27年度入学者を最後に学生募集停止。									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HP (http://www.tsuyama-ct.ac.jp/imgVer4/kyouiku/jitsumu.pdf)
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	津山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(20200401\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(20200401).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大 学理事・副学長	2020年4月1日～ 2022年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	2014年4月1日～ 2022年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	津山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>国立高専統一のWebシラバスシステムに基づき、統一の様式に則り、授業形態・到達目標・ルーブリック(成績評価基準表)・授業科目の概要や内容、方法、注意点・授業計画・評価割合を記載している。例年、前年12月～翌年2月にかけてシラバスを作成しており、作成完了後、教務委員会にて確認の上、年度初めの4月1日にインターネットにより公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	WEBシラバスによる (https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=32)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>WEBシラバスに基づき、試験やレポートおよび卒業研究等の評価基準により、各授業科目において、単位を認定している。また、全体の方針については、規則集の「学則」および「津山工業高等専門学校の学業成績の評価並びに各学年の課程修了及び卒業の認定に関する規程」により厳正に実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価については、本科においては、定期試験4回実施後、専攻科においては前期、後期終了後に、各科目の成績を集計し、全学生へ通知している。また、客観的な成績指標として平均点及びG P Aを算出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均点算出方法 点数の付いた科目の合計／科目数 ・G P A算出方法 【評価ポイント】 評価4 : 90～100点 評価3 : 80～ 89点 評価2 : 70～ 79点 評価1 : 60～ 69点 【計算式】 $\{ (\text{「評価4の単位数」} \times 4) + (\text{「評価3の単位数」} \times 3) + (\text{「評価2の単位数」} \times 2) + (\text{「評価1の単位数」} \times 1) \} / \text{総単位数}$ 	
客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.tsuyama-ct.ac.jp/imgVer4/kyouiku/seisekihyouka.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校規則集の「学則」および「津山工業高等専門学校の学業成績の評価並びに各学年の課程修了及び卒業の認定に関する規程」に記載している。</p> <p>後者規則の第21条において、本科の「卒業の認定は、第5学年の課程を修了した者について校長が教員会議に諮って行う。」と示している。その他、同規則に各学年の修了要件も記載している。専攻科の修了は、学則の第35条において、「校長は、所定の科目を修得したものに対し修了を認定し、修了証書を授与する。」と記載している。</p> <p>上記に基づき、本科においては、教員会議に諮って、卒業を認定している。また、専攻科においては、専攻科運営委員会で課程の修了を判定し、校長が課程の修了を認定している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本校ホームページにより学則、規則を公表している (http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gaiyouVer4/kitei.html) (http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/diploma-policy.html)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	津山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H30jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-R2.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:HP (http://www.tsuyama-ct.ac.jp/tenken/tenhyou.htm)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 総合理工学科先進科学系
教育研究上の目的 (公表方法: HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouikuVer4/mokuhyou.html)
(概要) 確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成するという教育理念のもと、以下の学習教育目標を掲げている。 科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成 1. 教養豊かな実践的人間力の養成 2. 確かな基礎科学の知識修得 3. 基盤となる専門性の深化 4. 分野横断的な融合力の育成 5. グローバルな視点と社会性の養成 6. 課題探求・解決能力の育成 7. コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成
卒業の認定に関する方針 (公表方法: HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/diploma-policy.html)
(概要) 共通教育及び4つの分野(系)に対応した系ごとに定める基礎並びに専門分野に関して、以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に準学士の称号を授与し卒業を認める。 (1) 修得している知識に基づきながら、先進科学に関わる課題に対して、他の技術者等と協力し解決しようとする積極性を身につけている。【人間力】 (2) 先進科学の基礎となる数学・物理・化学・生物等の知識を修得している。【基礎学力】 (3) 先進科学における基礎的および専門的な知識と、それらを数学・物理科学あるいは物質・生命科学の分野に応用できる能力を修得している。【専門性】 (4) 他の専門分野の研究者及び技術者と協力しながら、先進科学の専門分野と他の科学技術分野とを融合した新たな企画提案ができる素養を修得している。【融合力】 (5) グローバル社会に貢献できる国際性を身につけ、社会の抱える様々な問題及び異文化を理解することができる素養を修得している。【国際性】 (6) 複雑・多様化する科学技術に対して積極的に課題の探求を行い、具体的な解決策を提示できる素養を修得している。【行動力】 (7) 実施した検討内容や研究内容を正しく整理し発表する能力、及び他者と議論し共有する能力を修得している。【自己表現力】
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/cu-policy.html)
(概要) 学習・教育目標として掲げた項目を達成するために、全学共通科目、基盤専門系科目(全系基盤共通科目、系必修科目)、選択プログラム科目、融合科目および選択推進プログラム科目で構成される体系的なカリキュラムを提供している。 先進科学の教育・研究を志す人材、理学の素養が豊かな技術者を養成するために、「生命から宇宙まで幅の広い科学教育」をスローガンとして掲げ、数学、物理科学、化学、生命科学などを基軸とする理学とその応用を支える基礎工学について統合的かつ融合的に学べるカリキュラムを設定している。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/a-policy.html）</p>
<p>（概要） 総合理工学科では、教育理念に基づいた人材の育成を目指しており、以下のアドミッションポリシーに示される人で、しかも強い意志を持って学ぼうとする志の高い人を積極的に受け入れたいと考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ものづくりに興味があり、地域・社会に貢献したいと考えている人 2. 理数系・工学等に興味があり、それらの分野の勉強を深めたいと考えている人 3. 自らアイデアを出しそれを実現、または他の人と協力して実現したいと考えている人 4. 日本に限らず、世界でも自分の力を発揮したいと考えている人
<p>学部等名 総合理工学科機械システム系</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouikuVer4/mokuhyou.html）</p>
<p>（概要） 確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成するという教育理念のもと、以下の学習教育目標を掲げている。</p> <p>科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養豊かな実践的人間力の養成 2. 確かな基礎科学の知識修得 3. 基盤となる専門性の深化 4. 分野横断的な融合力の育成 5. グローバルな視点と社会性の養成 6. 課題探求・解決能力の育成 7. コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/diploma-policy.html）</p>
<p>（概要） 共通教育及び4つの分野（系）に対応した系ごとに定める基礎並びに専門分野に関して、以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に準学士の称号を授与し卒業を認める。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）修得している知識に基づきながら、機械システムに関わる課題に対して、他の技術者等と協力し解決しようとする積極性を身につけている。【人間力】 （2）工学の基礎となる数学・物理・化学等の知識を修得している。【基礎学力】 （3）機械工学における基礎的および専門的な知識と、それらを機械設計あるいはロボティクスの分野に応用できる能力を修得している。【専門性】 （4）他の専門分野の技術者等と協力しながら機械システムの分野と他の技術分野との融合により課題の解決や新たな企画提案ができる素養を修得している。【融合力】 （5）グローバル社会に貢献できる国際性を身につけ、社会の抱える様々な問題及び異文化を理解することができる素養を修得している。【国際性】 （6）複雑・多様化する科学技術に対して積極的に課題の探求を行い、具体的な解決策を提示できる素養を修得している。【行動力】 （7）実施した検討内容や研究内容を正しく整理し発表する能力、及び他者と議論し共有する能力を修得している。【自己表現力】
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/cu-policy.html）</p>

<p>(概要)</p> <p>学習・教育目標として掲げた項目を達成するために、全学共通科目、基盤専門系科目（全系基盤共通科目、系必修科目）、選択プログラム科目、融合科目および選択推進プログラム科目で構成される体系的なカリキュラムを提供している。</p> <p>「次世代の産業社会を担う機械システム技術者の養成」を目指して、機械システムの本質と他の技術分野との融合による課題探求・解決を学ぶことができるカリキュラムを設定している。</p>
--

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/a-policy.html）</p>
--

<p>(概要)</p> <p>総合理工学科では、教育理念に基づいた人材の育成を目指しており、以下のアドミッションポリシーに示される人で、しかも強い意志を持って学ぼうとする志の高い人を積極的に受け入れたいと考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ものづくりに興味があり、地域・社会に貢献したいと考えている人 2. 理数系・工学等に興味があり、それらの分野の勉強を深めたいと考えている人 3. 自らアイデアを出しそれを実現、または他の人と協力して実現したいと考えている人 4. 日本に限らず、世界でも自分の力を発揮したいと考えている人
--

<p>学部等名 総合理工学科電気電子システム系</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouikuVer4/mokuhyou.html）</p>

<p>(概要)</p> <p>確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成するという教育理念のもと、以下の学習教育目標を掲げている。</p> <p>科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養豊かな実践的人間力の養成 2. 確かな基礎科学の知識修得 3. 基盤となる専門性の深化 4. 分野横断的な融合力の育成 5. グローバルな視点と社会性の養成 6. 課題探求・解決能力の育成 7. コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/diploma-policy.html）</p>
--

<p>(概要)</p> <p>共通教育及び4つの分野（系）に対応した系ごとに定める基礎並びに専門分野に関して、以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に準学士の称号を授与し卒業を認める。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 修得している知識に基づきながら、電気電子システムに関わる課題に対して、他の技術者等と協力し解決しようとする積極性を身につけている。【人間力】 (2) 工学の基礎となる数学・物理・化学等の知識を修得している。【基礎学力】 (3) 電気電子工学における基礎的および専門的な知識と、それらをエレクトロニクスあるいは環境エネルギーの分野に応用できる能力を修得している。【専門性】 (4) 他の専門分野の技術者等と協力しながら電気電子システムの分野と他の技術分野との融合により課題の解決や新たな企画提案ができる素養を修得している。【融合力】 (5) グローバル社会に貢献できる国際性を身につけ、社会の抱える様々な問題及び異文化を理解することができる素養を修得している。【国際性】 (6) 複雑・多様化する科学技術に対して積極的に課題の探求を行い、具体的な解決策

<p>を提示できる素養を修得している。【行動力】</p> <p>(7) 実施した検討内容や研究内容を正しく整理し発表する能力、及び他者と議論し共有する能力を修得している。【自己表現力】</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/cu-policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>学習・教育目標として掲げた項目を達成するために、全学共通科目、基盤専門系科目（全系基盤共通科目、系必修科目）、選択プログラム科目、融合科目および選択推進プログラム科目で構成される体系的なカリキュラムを提供している。</p> <p>「環境エネルギー・エレクトロニクス社会を担う技術者の養成」を目指して、電気電子システムの本質と他の技術分野との融合による課題探求・解決を学ぶことができるカリキュラムを設定している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/a-policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>総合理工学科では、教育理念に基づいた人材の育成を目指しており、以下のアドミッションポリシーに示される人で、しかも強い意志を持って学ぼうとする志の高い人を積極的に受け入れたいと考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ものづくりに興味があり、地域・社会に貢献したいと考えている人 2. 理数系・工学等に興味があり、それらの分野の勉強を深めたいと考えている人 3. 自らアイデアを出しそれを実現、または他の人と協力して実現したいと考えている人 4. 日本に限らず、世界でも自分の力を発揮したいと考えている人
<p>学部等名 総合理工学科情報システム系</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouikuVer4/mokuhyou.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成するという教育理念のもと、以下の学習教育目標を掲げている。</p> <p>科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養豊かな実践的人間力の養成 2. 確かな基礎科学の知識修得 3. 基盤となる専門性の深化 4. 分野横断的な融合力の育成 5. グローバルな視点と社会性の養成 6. 課題探求・解決能力の育成 7. コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/diploma-policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>共通教育及び4つの分野（系）に対応した系ごとに定める基礎並びに専門分野に関して、以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に準学士の称号を授与し卒業を認める。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 修得している知識に基づきながら、情報システムに関わる課題に対して、他の技術者等と協力し解決しようとする積極性を身につけている。【人間力】 (2) 工学の基礎となる数学・物理・化学等の知識を修得している。【基礎学力】 (3) 情報工学における基礎的および専門的な知識と、それらをネットワークあるいはICTの分野に応用できる能力を修得している。【専門性】

- (4) 他の専門分野の技術者等と協力しながら情報システムの分野と他の技術分野との融合により課題の解決や新たな企画提案ができる素養を修得している。【融合力】
- (5) グローバル社会に貢献できる国際性を身につけ、社会の抱える様々な問題及び異文化を理解することができる素養を修得している。【国際性】
- (6) 複雑・多様化する科学技術に対して積極的に課題の探求を行い、具体的な解決策を提示できる素養を修得している。【行動力】
- (7) 実施した検討内容や研究内容を正しく整理し発表する能力、及び他者と議論し共有する能力を修得している。【自己表現力】

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：HP

<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/cu-policy.html>)

(概要)

学習・教育目標として掲げた項目を達成するために、全学共通科目、基盤専門系科目（全系基盤共通科目、系必履修科目）、選択プログラム科目、融合科目および選択推進プログラム科目で構成される体系的なカリキュラムを提供している。

「情報システムを統合的に理解し、設計・構築・保守運用のできる技術者の養成」を目指して、情報システムの本質と他の技術分野との融合による課題探求・解決を学ぶことができるカリキュラムを設定している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：HP

<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/a-policy.html>)

(概要)

総合理工学科では、教育理念に基づいた人材の育成を目指しており、以下のアドミッションポリシーに示される人で、しかも強い意志を持って学ぼうとする志の高い人を積極的に受け入れたいと考えている。

1. ものづくりに興味があり、地域・社会に貢献したいと考えている人
2. 理数系・工学等に興味があり、それらの分野の勉強を深めたいと考えている人
3. 自らアイデアを出しそれを実現、または他の人と協力して実現したいと考えている人
4. 日本に限らず、世界でも自分の力を発揮したいと考えている人

学部等名 電子制御工学科

教育研究上の目的（公表方法：HP

<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/honkou/gakka/densei/s-mokuhyou.htm>)

(概要)

ハイテク時代に活躍するメカトロニクス技術者の養成

卒業の認定に関する方針（公表方法：冊子「学生生活ガイドブック」

(概要)

電子制御工学科における教育課程により以下の項目に挙げる能力を身につけるとともに、設定した所定の単位を修得した学生に準学士の称号を授与し卒業を認める。

- (1) 数学、物理を中心とした基礎科目で得られた知識を、工学問題へ応用する能力を修得している。
- (2) 電子制御工学に関する専門技術分野の知識を修得し、工学問題の解析やメカトロニクス関連機器の設計や製作ができる能力を修得している。
- (3) 実験・実習等の実技を伴う科目を通じて専門知識を深化させるとともに、実験の遂行能力と結果を考察する能力を修得している。
- (4) 自発的学習を含む科目の学習を通じて専門知識を基盤としてモノづくりができる能力と、課題に対して専門知識を展開できる能力を修得している。
- (5) 卒業研究を通じて、研究の背景や目的を適切に理解し、課題解決能力を修得し、研究の基本的過程を身に付けるとともに発表や討論ができるプレゼンテーション能力を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：HP (<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/honkou/gakka/densei/syllabus/s-syllabuspre.pdf>)

<p>(概要)</p> <p>シラバスには、学習目的や到達目標など各科目で身に付けるべき知識や能力が明記されるとともに、それを達成させるための授業計画が詳細に記されている。履修や受講の前、あるいは年度の途中であっても、シラバスの内容を熟読し確認することで、一年を通して計画的に学習を進めることができるようになっている。また、シラバスには本校の「理念・教育目標」や各科の「教育目標」、科目間の関連性を図示した「教育課程系統図」、「授業科目の流れ」も掲載している。その科目を学習するにあたって基礎となる科目や関連する科目も挙げている。これらを結びつけることで、5年間（専攻科を含めると7年間）にわたる教育課程の中での各科目の位置づけと目的を理解することができる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/honkou/annai/a-policy.htm#a-policy_h27)</p>
<p>(概要)</p> <p>以下に示す能力、適性（または資質）を持つ人の入学を歓迎する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者への志を強く持ち、向上心のある人 ・理数科目について興味と基礎的な理解力のある人 ・ものづくりに興味のある人 ・チャレンジ精神や協調性があり、社会の発展に貢献したいと考えている人
<p>学部等名 情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/honkou/gakka/jyouhou/c-mokuhyou.htm)</p>
<p>(概要)</p> <p>本校の「理念・教育目標」にある実践的技術と工学の基礎を学び、深く専門の学芸・技術を身に付けた、創造性、活力、人間愛、国際性に富んだ人材の育成を目指して、情報工学科では「ハードからソフトまで総合力を持ったコンピュータ技術者の養成」を教育目標に掲げている。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：冊子「学生生活ガイドブック」</p>
<p>(概要)</p> <p>情報工学科における教育課程により以下の項目に挙げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に準学士の称号を授与し卒業を認める。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 数学、物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を修得し、情報工学を中心とした技術分野に応用する能力を修得している。 (2) 情報・制御ならびに電気・電子の分野に関する専門技術分野の知識を修得し、情報・通信等の分野に応用できる能力を修得している。 (3) 実験や演習等の体験的学習を通じて知識理解を深化させるとともに、実験遂行能力、データを解析し考察する能力、システム作成能力を修得している。 (4) 自発的学習を含む科目の学習を通じて創造性、自主性を身につけるとともに、学んだ技術・知識を具体的なシステム等の作成に応用できる力を修得している。 (5) 卒業研究の学習を通じて、研究計画をデザインし、工学現象を理解し問題解決する力やプレゼンテーション力を修得している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：HP（http://www.tsuyama-ct.ac.jp/honkou/gakka/jyouhou/syllabus/c-syllabuspre.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>シラバスには、学習目的や到達目標など各科目で身に付けるべき知識や能力が明記されるとともに、それを達成させるための授業計画が詳細に記されている。履修や受講の前、あるいは年度の途中であっても、シラバスの内容を熟読し確認することで、一年を通して計画的に学習を進めることができるようになっている。また、シラバスには本校の「理念・教育目標」や各科の「教育目標」、科目間の関連性を図示した「教育課程系統図」、「授業科目の流れ」も掲載している。その科目を学習するにあたって基礎となる科目や関連する科目も挙げている。これらを結びつけることで、5年間（専攻科を含めると7年間）にわた</p>

<p>る教育課程の中での各科目の位置づけと目的を理解することができる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/honkou/annai/a-policy.htm#a-policy_h27）</p>
<p>（概要） 以下に示す能力、適性（または資質）を持つ人の入学を歓迎する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者への志を強く持ち、向上心のある人 ・理数科目について興味と基礎的な理解力のある人 ・ものづくりに興味のある人 ・チャレンジ精神や協調性があり、社会の発展に貢献したいと考えている人
<p>学部等名 専攻科 機械・制御システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/senkou/mokuhyou.html）</p>
<p>（概要） 本科5年間の一貫教育の成果を活かし、さらに高度な専門知識と研究開発能力を身につけた創造的・実践的技術者や研究者の養成を目標としている。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/senkou/diploma-policy.html）</p>
<p>（概要） 教育課程により以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に修了を認める。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）数学、物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め、機械・制御システム工学に関する基礎学力として応用する能力を修得している。 （2）次の専門技術分野の知識を修得し、機械やシステム的设计・製作・運用に活用できる能力を修得している。 材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産・管理、機械とシステムなどの専門技術分野 （3）特別実験の実践的学習を通じて、基礎学科に関連する知識理解を深化させると同時に、実験の遂行能力・データを解析・考察する能力を修得している。 （4）特別研究を自主的、積極的に推進することにより、技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を修得している。 （5）工学倫理の学習や技術者倫理に関する特別講義の受講を通じて、広く技術者倫理を理解する能力を修得している。 （6）校外実習、先端技術特別講義や学協会への参加を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からものを見ることの大切さを理解する能力を修得している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/senkou/cu-policy.html）</p>

<p>(概要) 専攻科の教育課程では、大きく分けると一般・専門共通科目と専門科目を修得する。</p> <p>【一般・専門共通科目】 実践英語、日中比較論、哲学、社会科学などの一般科目と、数学、物理、生物、環境、実験法などの基礎科学と情報処理技術の各分野、さらに工学倫理について学習します。</p> <p>【専門科目】 材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産・管理、機械とシステムなどの各分野を学習する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/senkou/a-policy.html）</p>
<p>(概要) 専攻科では、本科における教育の成果を活かし、さらに高度な専門知識と研究開発能力を身につけた創造的で実践的な技術者や研究者を JABEE 認定教育プログラムの基に養成するため、以下に示す能力、適性（又は資質）を持つ人を受け入れたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者への志を強く持ち、向上心のある人 ・技術者教育プログラムを修める強い意志のある人 ・工学の基本的な知識を修得した人 ・より高度な能力を身につけた実践的技術者や研究者を目指すことを希望している人 ・豊かな人間社会の発展に貢献したいと考えている人
<p>学部等名 専攻科 電子・情報システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/senkou/mokuhyou.html）</p>
<p>(概要) 本科5年間の一貫教育の成果を活かし、さらに高度な専門知識と研究開発能力を身につけた創造的・実践的技術者や研究者の養成を目標としている。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/senkou/diploma-policy.html）</p>
<p>(概要) 教育課程により以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に修了を認める。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 数学、物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め、電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を修得している。 (2) 次の専門技術分野の知識を修得し、機械やシステムの設計・製作・運用に活用できる能力を修得している。 電気・電子、情報・制御に関する専門技術分野 (3) 特別実験の実践的学習を通じて、基礎学科に関連する知識理解を深化させると同時に、実験の遂行能力・データを解析・考察する能力を修得している。 (4) 特別研究を自主的、積極的に推進することにより、技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を修得している。 (5) 工学倫理の学習や技術者倫理に関する特別講義の受講を通じて、広く技術者倫理を理解する能力を修得している。 (6) 校外実習、先端技術特別講義や学協会への参加を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からものを見ることの大切さを理解する能力を修得している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/senkou/cu-policy.html）</p>

<p>(概要) 専攻科の教育課程では、大きく分けると一般・専門共通科目と専門科目を修得する。</p> <p>【一般・専門共通科目】 実践英語、日中比較論、哲学、社会科学などの一般科目と、数学、物理、生物、環境、実験法などの基礎科学と情報処理技術の各分野、さらに工学倫理について学習します。</p> <p>【専門科目】 電気・電子と情報・制御に関する各分野を学習する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：HP http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/senkou/a-policy.html）</p>
<p>(概要) 専攻科では、本科における教育の成果を活かし、さらに高度な専門知識と研究開発能力を身につけた創造的で実践的な技術者や研究者を JABEE 認定教育プログラムの基に養成するため、以下に示す能力、適性（又は資質）を持つ人を受け入れたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者への志を強く持ち、向上心のある人 ・技術者教育プログラムを修める強い意志のある人 ・工学の基本的な知識を修得した人 ・より高度な能力を身につけた実践的技術者や研究者を目指すことを希望している人 ・豊かな人間社会の発展に貢献したいと考えている人

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gaiyouVer4/soshiki.html</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
先進科学系	—	7人	5人	3人	0人	0人	15人
機械システム系	—	7人	6人	3人	0人	0人	16人
電気電子システム系	—	5人	10人	0人	1人	0人	16人
情報システム系	—	8人	4人	2人	1人	0人	15人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			23人				23人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本校ウェブサイト http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakkaVer4/sogoriko/sogoriko.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合理工学科	160人	168人	105.0%	800人	828人	103.5%	若干名	7人
機械工学科	0人	0人	%	0人	5人	%	0人	0人
電子制御工学科	0人	0人	%	0人	2人	%	0人	0人
情報工学科	0人	0人	%	0人	4人	%	0人	0人
合計	160人	168人	105.0%	800人	839人	104.9%	若干名	7人
機械・制御システム工学専攻	8人	7人	87.5%	16人	18人	112.5%	0人	0人
電子・情報システム工学専攻	8人	8人	100.0%	16人	16人	100.0%	0人	0人
合計	16人	15人	93.8%	32人	34人	106.3%	0人	0人
(備考) 機械工学科、電子制御工学科、情報工学科については、平成27年度入学者を最後に学生募集停止しており、修業年限を超えている学生のみ在籍。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
総合理工学科	0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
機械工学科	39人 (100%)	4人 (10.3%)	32人 (82.1%)	3人 (7.7%)
電気電子工学科	37人 (100%)	8人 (21.6%)	28人 (75.7%)	1人 (2.7%)
電子制御工学科	46人 (100%)	14人 (30.4%)	31人 (67.4%)	1人 (2.2%)
情報工学科	37人 (100%)	8人 (21.6%)	29人 (78.4%)	0人 (0.0%)
合計	159人 (100%)	34人 (21.4%)	120人 (75.5%)	5人 (3.1%)
機械・制御システム工学専攻	11人 (100%)	1人 (9.1%)	10人 (90.9%)	0人 (0.0%)
電子・情報システム工学専攻	9人 (100%)	0人 (0.0%)	9人 (100%)	0人 (0.0%)
合計	20人 (100%)	1人 (5.0%)	19人 (95.0%)	0人 (0.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>高専WEBシラバスにより、本校の授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法を記載し、公表している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本校規則集の「学則」および「津山工業高等専門学校の学業成績の評価並びに各学年の課程修了及び卒業の認定に関する規程」に記載している。</p> <p>後者規則の第 21 条において、本科の「卒業の認定は、第 5 学年の課程を修了した者について校長が教員会議に諮って行う。」と示している。その他、同規則に各学年の修了要件も記載している。専攻科の修了は、学則の第 35 条において、「校長は、所定の科目を修得したものに對し修了を認定し、修了証書を授与する。」と記載している。</p> <p>上記に基づき、本科においては、教員会議に諮って、卒業を認定している。また、専攻科においては、専攻科運営委員会で課程の修了を判定し、校長が課程の修了を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	先進科学系	167 単位		
	機械システム系	167 単位		
	電気電子システム系	167 単位		
	情報システム系	167 単位		
	機械工学科	167 単位		
	電子制御工学科	167 単位		
	情報工学科	167 単位		
	機械・制御システム工学専攻	62 単位		
	電子・情報システム工学専攻	62 単位		
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：学校要覧 P52～P53

HP (<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gaiyouVer4/youran.html>)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	先進科学系	234,600円	84,600円	71,199円～ 86,799円	教科書代 31,199円 後援会費 24,000円 後援会入会金 10,000円 学生会費 6,000円 寄宿料 8,400～9,600円 (寮生のみ) 寮後援会費 4,000円 (寮生のみ) 寮学生会費 1,000円 (寮生のみ) 寮生会入会金 1,000円 (寮生のみ)
	機械システム系				
	電気電子システム系				
	情報システム系				
	機械・制御システム工学専攻	234,600円	84,600円	45,664円～ 71,264円	教科書代 15,664円 (機械・制御システム工学専攻) 18,590円 (電子・情報システム工学専攻) 後援会費 24,000円 後援会入会金 10,000円 (他高専からの入学者のみ) 学生会費 6,000円 寄宿料 8,400～9,600円 (寮生のみ) 寮後援会費 4,000円 (寮生のみ) 寮学生会費 1,000円 (寮生のみ) 寮生会入会金 1,000円 (寮生のみ、他高専からの入学者のみ)
	電子・情報システム工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生支援室を設置し、学生生活や学習場面で困り感のある学生を支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 進学希望者に対しては、進学説明会及び進学ガイダンスを年1回開催している。 就職希望者に対しては、就職ガイダンスを年2回開催している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生相談室を設置し、様々な問題の相談に対して、必要に応じてカウンセラー室及び保健室等と連携して、適切な助言および支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： 学校要覧 (http://www.tsuyama-ct.ac.jp/gaiyouVer4/youran.html)

シラバス (<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouikuVer4/syllabus.html>)
学修成果 (<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/imgVer4/gaiyou/kitei/0615seiseki.pdf>)
費用 (<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/keihiVer4/keihi.html>)
修学支援 (<http://www.tsuyama-ct.ac.jp/honkou/shisetsu/soudan.htm>)

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。